

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目 (該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分 (申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無 (該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制 (該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん かまぐらのうぶたい 公益財団法人鎌倉能舞台		
代表者職・氏名	代表理事 石渡 徳一		
制作団体所在地	〒 248-0016 神奈川県鎌倉市長谷3-5-13		
電話番号	0467-22-5557	FAX番号	0467-22-5557
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじん かまぐらのうぶたい 公益財団法人鎌倉能舞台		
代表者職・氏名	代表理事 石渡 徳一		
公演団体所在地	〒 248-0016 神奈川県鎌倉市長谷3-5-13		
制作団体 設立年月	昭和44年 7月		
制作団体組織	役職員 代表理事:石渡徳一、業務理事:藤川譲治、中森貴太、理事:大崎哲郎、近藤浩通、若林隆壽、井出太一、坂倉徹、浅尾慶一郎 監事:露木朗、鴻谷正博、職員:中森 三佳	団体構成員及び加入条件等 [団体構成員] ○能楽出演者 = 能楽協会所属能楽師 (鎌倉能舞台より出演委託した者) ○鎌倉能舞台賛助会員 = 広く一般(能楽愛好者)	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	中森三佳
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	宮本泰三(税理士)

制作団体沿革	【公益財団法人鎌倉能舞台】 ・昭和33年4月 中森晶三能楽研究会発足、同34年4月 鎌倉能の会と改称。 ・同年10月「鎌倉薪能」創立に参画。 - 同年「中高校生対象の能楽教室」開始。約300回、30万人に実演提供。 ・昭和44年7月 財団法人の認可。同45年5月 鎌倉能舞台の建築落成。 - 同年より「県民のための能を知る会」(年間22回～30回)開始。 ・昭和49年より「能を知る会東京公演」(年間4～6回)開始。 - 薪能の発展に尽力(27箇所200回以上)。 ・平成15年より日本財団事業「中高生のための能狂言教室」開始。 ・平成20年より文化庁「本物の舞台芸術体験事業」受託開始。 ・平成23年11月 公益財団法人(神奈川県)認定。 主催公演・受託公演・学生向け公演併せて年間約50公演以上、およそ16000人の観客に公演を行っております。			
学校等における公演実績	・昭和30年代より小中高校生対象の能楽教室を開始して以来、50年以上に亘って、学校体育館や公民館等での学生向け公演を実施し、平成15年度より平成25年度まで日本財団の助成を受け、「中高生のための能楽体験教室」を毎年10校～15校の学校対象に実施、平成19、20年度には文化庁「人材育成事業」を受託し、小樽、四日市、彦根、神奈川県等での子ども向けワークショップ・狂言鑑賞教室を実施しました。 ・平成21年度から文化庁「地域活性化事業」を受託し、鎌倉市内小学生への狂言教室を行い、令和1年より鎌倉市教育委員会主催で小学6年生16校の狂言教室を行っております。 ・平成19年度より、神奈川県共催の『中・高校生のための能・狂言鑑賞体験教室』を開催、神奈川県・小田原市主催の能楽ワークショップを行っています。 ・平成20年度より24年度まで文化庁「本物の舞台芸術体験事業」、「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」を受託し、毎年12～15校の学校で、毎年およそ5000人の生徒に公演を行いました。 ・平成26～は文化庁「文化芸術による子供の育成事業」を受託し、26年度は16校、平成27年度は10校、平成28年度は16校、平成29年度は24校、平成30年度は17校、令和元年度は23校、令和2年度は14校、令和3年度は17校にて開催中です。			
特別支援学校における公演実績	・平成21年度：横須賀ろう学校にて「本物の舞台芸術体験事業」公演を実施。ワークショップ・解説・狂言「附子」・能「羽衣」上演しました。 ・平成27年度：長崎県立ろう学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。プロジェクターにより字幕をスクリーンに映し出して、字幕付きでワークショップ・解説・狂言「柿山伏」・能「安達原」を上演しました。 ・平成29年度：札幌視覚支援学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。能楽鑑賞の手引き・字幕台本を事前に学校へ提供し点字変換を行い、ワークショップでは本物の能面・装束・頭を触手してもらった上で、本公演で狂言「柿山伏」・能「小鍛冶」を上演しました。 ・平成29年度：青森県八戸聾学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。プロジェクターにより字幕をスクリーンに映し出して、字幕付きでワークショップ・解説・狂言「柿山伏」・能「小鍛冶」を上演しました。			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
			PW:	
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
			PW:	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人鎌倉能舞台 】

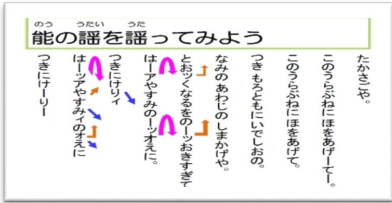
対象	○	小学生(低学年)	○	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	能楽「敦盛」「柿山伏」－【字幕解説付き】わかりやすい能・狂言鑑賞体験教室－日本の伝統文化を知ろう			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	日本の世界無形文化遺産「能楽」を、狂言「柿山伏」と能「安達原」をセットでわかりやすく鑑賞・体験してもらい、日本の伝統文化を知ってもらうことを目的としています。能には字幕がつきますので物語りとしての能を楽しめます。 【本公演 プログラム】 (第一部) 1: 始まりの挨拶と解説 「能舞台について」「本日の演目について」(5分) 2: 狂言鑑賞 「柿山伏 (かきやまぶし)」 鑑賞 (15分) －休憩－ (10分) (第二部) 3: 能鑑賞 「敦盛 (あつもり)」鑑賞 (40分) プロジェクターに字幕投影付き 4: 狂言体験 (20分) 5: 質問コーナー (10分) 別添①② 公演時間(100分)			
著作権	○	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	狂言「柿山伏(かきやまぶし)」小学6年生国語の教科書に載っている演目を鑑賞して頂きます。 【あらすじ】：とある山伏は、大峯葛城(奈良県のあたり)で修行を終え、故郷の出羽国(山形県)の羽黒山へ向かっていた。ずっと歩き続けて喉が渇いた山伏は、喉を潤すために茶屋を探すも見つからず、途中見つけた豊作の柿畑で盗み食いしようとする。柿を取るために腰の小太刀で叩いてみたり、石を投げたりするも上手くいかず、木に登って直接食べる事にする。山伏が柿をたらふく食べていると、柿畑の持ち主が見回りにやって来、木に登る人影を見つける。木の陰に隠れられていると思っている山伏を、見つけた畑主は色々な動物の鳴き真似をさせてからかう。最後には山伏を柿の木から落とし、溜飲を下げて畑主が立ち去ろうとする。 能「敦盛 (あつもり)」日本史に登場するだけでなく、平家物語の名場面として名高い平敦盛の最後の有様を示す「敦盛」をわかりやすい形の能で観劇することにより、日本の歴史だけでなく古典についても子供たちに興味を持ってもらえます。 【あらすじ】：一ノ谷の合戦にて自分の息子と同年であった十六歳の平敦盛を討ち取った熊谷次郎直実は後悔から出家をし、蓮生法師と名乗っていた。敦盛を弔おうと一ノ谷までやってきた蓮生は、笛の音とともにやってきた草刈りの男達と出会う。その中のひとり「青葉の笛」のことを語った後、敦盛の亡魂だとほめかして蓮生に弔いを頼んで消え失せる。望みのままに蓮生が夜すがら読経していると、敦盛の亡霊が当時の甲冑姿で現れ、蓮生の非を責める。しかし蓮生は静かに受け止めさらなる弔いを行うと、敦盛は落ち着きを取り戻す。そして懺悔のため、合戦前夜の陣中の有様や当時の戦いの様を敦盛は仕方話に舞い語る。やがて敦盛は、蓮生の供養により成仏できることに感謝をし、姿を隠すのであった。			
演目選択理由	狂言「柿山伏(かきやまぶし)」は、小学校の教科書に採択されており、ストーリーも簡潔で分かり易い。台詞よりも動きが多く、動物の物まねなど子供の興味をひく型が多い狂言です。 能「敦盛 (あつもり)」は、随所に省略箇所を設け、筋書きを壊すことなく、分かり易い簡潔なストーリーに仕立てられています。前半部分は能面を掛けない男姿、後半は甲冑姿の青年とはっきりと印象が変わり、見た目にも華やかで楽しめる演目です。また、省略を入れる事により小学生でも鑑賞可能な時間に物語を短縮することも可能です。 後シテは地謡による「仕舞」、囃子による「中之舞(ちゅうのまい)」といった舞の部分や、軍物語として合戦の場面もあり、能の中でも動きが多く見ていて飽きの来ない構成となっています。 後シテの太刀を使う所作をワークショップで学び、本公演では曲の一部を謡うことで舞台との一体感を体験して頂きたいと思います。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	【能公演での児童・生徒の共演】 ・敦盛が仕方話に舞示す「クセ」をワークショップで練習し、地謡と一緒に謡います。 また、スクリーンに字幕を出して、現代語で、場面ごとの説明をお見せしながら見て貰います。 【狂言体験での児童・生徒の参加】 ・狂言と能を鑑賞した後の「狂言体験」のコーナーで、狂言の先生から狂言の基本的な「構え」や「運び(歩き方)」を教えてもらったり、「柿山伏」で見た柿を食べる演技や、笑い方などを、舞台上に上がった生徒と客席の全員で体験してもらいます。			
出演者	シテ方: 中森貴太、観世喜正、駒瀬直也、弘田裕一、奥川恒治、佐久間二郎、中所宜夫、遠藤喜久、遠藤和久、坂真太郎、鈴木啓吾、中森健之介、桑田貴志、八田達也、寺澤幸祐 等 (シテ1名、地謡6名、後見2名 働き2名 計11名) ワキ方: 盛田謙吉、森常好、大日方寛、則久英志、御厨誠吾、館田善博、野口琢弘 等 (計3名) 狂言方: 大藏教義、大藏基誠、善竹大二郎、榎本元、高野和憲、深田博治、中村修一、野口隆行、奥津健太郎 等 (計3名) 笛方: 寺井宏明、一噌隆之、藤田貴寛、栗林祐輔、竹市学 等 小鼓方: 幸正昭、鶴澤洋太郎、飯田清一、久田陽春子、田邊恭資 等 大鼓方: 安福光雄、柿原弘和、亀井広忠、上野義雄、柿原光博 等 太鼓方: 小寺真佐人、梶谷英樹、中田弘美 等 (囃子方 計4名) ※は重要無形文化財保持者。 能楽界第一線で活躍している経験豊かな「能楽協会所属能楽師」(＝玄人)で上演します。			
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 21 名 スタッフ: 3 名 合 計: 24 名		機材等 運搬方法	積載量: 2 t 車 長: 5 m 台 数: 1 台

【公演団体名 公益財団法人鎌倉能舞台 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の目 安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		1	時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	12時30分	12時30分～ 13時30分	13時30分～ 15時10分	10分	15時10分～ 15時40分	15時40分
※本公演時間の目安は、午後1時30分からの概ね2時限分程度です。						
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		10人から1000人程度			
	本公演		10人から1000人程度			
ワークショップ 実施形態及び内容	①能楽の基礎知識や歴史のお話。→プロジェクターを見ながら聞いて貰います。 ②「謡曲」が江戸時代に武士の共通語の教科書となった解説の実践として、生徒全員で「敦盛」の一節を謡う体験をしてもらいます。(本公演でその場面を全員で謡う) ③ 本公演の当日に使用する能面、装束・小道具などを見せ、能面の視界の狭さや装束の重さを数名に体験してもらいます。 ④楽器の説明、使用可能になるまで数十年から数百年掛かる事などを話し、日本の伝統文化についても理解を深めてもらいます。小鼓の体験もしてもらいます。 ⑤「敦盛」のシテの型を生徒全員で練習します。 別添③					
ワークショップ 実施形態の意図	・始めてみる能楽について、プロジェクターの映像や動画を映しだして解説し、生徒たちの期待を促します。 ・謡曲の体験では、まず「挨拶」の仕方を指導し、日本語の正しい発音(鼻濁音など)を教え、音楽の授業などで日本の歌を歌う際には意識できるようにします。また囃子に合わせて謡う稽古をすることで、能のリズム感も体験することが出来ます。 ・能面をかけてみてもらい、能面の視界(の狭さ)を体験することにより、能舞台の四隅に柱がある意味や、見えない上に重い衣裳を着た役者の動きに興味を持ってもらいます。 ・能の楽器を実際にさわりながら、西洋音楽とは違う日本の音楽への関心を深めさせます。					
特別支援学校での 実施における工夫点	・事前に綿密な打合せを行い、上演中に字幕を使うなど子ども達に一番良い公演スタイルを構築します。 ・視覚支援学校の場合は、学校の協力を頂きながら字幕も含め資料の点字化を行うと共に、本物の能面・装束などを触手してもらい、子ども達にイメージを膨らませて貰います。 ・聾学校の場合は解説・狂言・能と全て字幕を出しながら上演し、見て楽しんでもらえるようにします。					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人鎌倉能舞台 】
本公演演目 演目概要 ①	○舞台について:【体育館が能舞台に！ どこでも能舞台】 ・ 簡易舞台セットで体育館に「能舞台」を作ります。(簡易柱・欄干、揚げ幕、鏡板) ・ 舞台は体育館の形状・生徒数によってステージの上でも体育館の床でも、ステージの上でも設置可能です。設営・撤収とも30分程、能楽出演者で設置・撤収します。 ・ 舞台横にスクリーンで字幕を表示し、わかりやすい現代語訳の解説を写し出します。 ※平成10年より鎌倉能舞台が”簡易舞台セット”＝「どこでも能舞台®」を考案し、学生向け公演に導入始めました。   ○本公演プログラム 1. 解説「狂言と能をいよいよ見るぞ！」 解説では、これから公演を行う能舞台を実際に見ながら、舞台形状の意味や柱の存在理由、拍手のタイミングなどをお話します。これから上演する狂言と能のあらすじを、詞章や型の説明を加えながら、わかりやすい言葉で行います。能と狂言がセットになった本来の形で見ることにより、ユネスコの世界文化遺産になった日本の伝統芸能「能楽」を的確に理解を深めることができます。  2. 狂言「柿山伏(かきやまぶし)」 小学6年生国語の教科書に載っている演目を鑑賞して頂きます。  	

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人鎌倉能舞台 】
本公演演目 演目概要②	○本公演プログラム（続き） 3. 能「敦盛（あつもり）」 日本史に登場するだけでなく、平家物語の名場面として名高い平敦盛の最後の有様を示す「敦盛」をわかりやすい形の能でスクリーンの字幕を見ながら観劇します。またシテの謡の部分で生徒と一緒に謡の参加もしてもらいます。生徒が飽きないよう、40分程度に詰めて上演します。   4. 体験ワークショップ 鑑賞した「柿山伏」に出演した狂言方が、曲中の台詞や所作を、代表して舞台に上がった生徒と客席の全員に体験してもらいます。  5. 質問コーナー： 能楽全般の質問に誠意を持ってお答えします。質問が多すぎて時間が足りない場合は、学校で取りまとめて頂ければ責任を持って後日回答をいたします。	

リンク先	No.3	【公演団体名 公益財団法人鎌倉能舞台 】
ワークショップ 実施形態及び内容	○事前ワークショップ「能について知ってみよう！」（能楽師3名で行います）	
	・まず、ご挨拶からはじめます。 : 始まる前に「お願いします」、 終わりに「ありがとうございました」と、 ご挨拶をかわしましょう。 : 実際に公演に使う能面や鬘、装束 を見て貰います。	
	・謡ってみよう！ : 生徒全員で謡の 一節を謡ってもらいます。	
	・能面をかけてみよう！ : 生徒に能面を実際に つけて歩いてもらい、 能面をかけた時の 見えにくさを体験し てもらいます。	 
	・能の楽器をさわってみよう！ : 能の楽器の説明と、実際に さわってもらいます。	 
	・能の動きをやってみよう！ : 敦盛のシテの動きをやってみます。  	

令和5年度

文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」

巡回公演事業

わかりやすい
字幕解説付き！

能・狂言教室

どこでも**能舞台**®で体育館が能舞台に変身！

「全ての子供に能・狂言鑑賞の場を」
これが私たちの願いです。

日本の「能楽」は、「人類の口承及び無形遺産の傑作」として
2001年に宣言され初指定された、ユネスコの世界無形
文化遺産です。しかし、どれだけの日本人が能・狂言を見た
ことがあるのでしょうか？ これからの日本を作っていく子供
たちに、能・狂言を見て貰い、自国の伝統芸能に対する
造詣を深めて欲しい。そう私たちは考えます。

わかりやすい
字幕解説付き
字幕e能®

能
敦
盛



狂言
ワイク・シヨップ

狂言の動きを
やってみよう！



狂言
柿山伏

教科書で学んだ
狂言の実演を
見てみよう！

鎌倉能舞台では令和4年「文化芸術による
子供育成推進事業」を行っております。

鎌倉能舞台

文化芸術による子供育成推進事業 — 巡回公演事業 —

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞
する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の
芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的とした事業です。

公演の実施に当たっては、事前に公演に関するワークショップを行い、児童・生徒を実演に参加
させるとともに、実演指導又は鑑賞指導を行います。

文化庁

〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷3-5-13
TEL/FAX.0467-22-5557
URL.http://www.nohbutai.com
E-mail.webmaster@nohbutai.com

プログラム

能楽(のうがく)=能と狂言の両方を体験してもらう
ことで、日本の伝統文化への造詣を深めて貰います!

事前ワークショップ《能について知ってみよう!》

本公演前に能楽師が学校に伺います。
まずは能楽について学び、体験しましょう!

1 能について知ってみよう!

(スクリーンに映像や動画を映しだして視覚的に説明します)

2 能の謡を謡ってみよう!

(事前ワークショップで練習した謡を本公演と一緒に謡ってもらいます)

3 能面をかけてみよう!

(能面をかけて歩いてもらいます)

4 能の楽器をさわってみよう!

(能の楽器を実際に体験してもらいます)

5 能の動きをやってみよう!

(能「敦盛」の太刀を振る型と一緒にやってみます)



「能と狂言のしおり」を
全員にお配りします。



本公演《プロの能楽師の実演を鑑賞しよう!》

体育館に簡易舞台を設営します。
体育館が能舞台に変身!

能楽界第一線で活躍している経験豊かな能楽師が「能楽=能と狂言」をわかりやすい形でお見せします。
ぜひ本物の日本の文化に触れてみましょう!(公演時間100分)

1 始まりのご挨拶&解説 5分

(能舞台についてと本日の演目について、少しお話しします。)

2 狂言「柿山伏」鑑賞 15分

休憩10分

3 舞囃子「船弁慶」 5分

4 能「敦盛」鑑賞

(わかりやすい字幕解説付き!) 40分

(謡の一節と一緒に謡う共演をします。)

5 狂言体験ワークショップ 20分

(狂言の先生と「柿山伏」の動きの体験をします。)

6 質問コーナー 10分

(子ども達の疑問に能楽師が誠意を持って優しくお答えします。)

どこでも
能舞台®
簡易能舞台セットで
体育館が能舞台に変身!

